

## 最も地震に強い「耐震等級3」相当※で設計。耐震補償付住宅。

世界で起こるマグニチュード6以上の巨大地震は5回に1回が日本で起きています。1995年には、阪神・淡路大震災、最近では能登半島地震や新潟県中越沖地震、東日本大震災など、次々と大きな地震が発生しています。そして、首都直下型・南海トラフ地震などが予測されています。当社では(株)LIXILと提携し、最も地震に強い「耐震等級3」相当※で設計し耐震補償を付けております。



## 地震に強いスーパーストロング構造体バリュー、3つの安心

### 耐震等級の最高等級



消防署や警察など防災の拠点となる建物がこの基準に相当します

SSバリューが設計の基準にしている「耐震等級3」相当※は、国土交通省の住宅性能表示制度・耐震等級における最高等級であり、阪神・淡路大震災相当の地震の1.5倍の力に対しても倒壊しないレベルを表します。災害時の救済拠点となる消防署や防災本部、警察署などに求められる耐震安全性と同じ、最高基準です。

### 第三者の(株)LIXILが構造検査を実施



わが家のプロフィール  
(設計検査報告書)

当社が設計した図面を(株)LIXILのCADセンターにおいて、1棟ごとに「耐震等級3」相当※を設計検査。お客様には設計検査報告書「わが家のプロフィール」をお渡しします。また、工事期間中に住宅瑕疵担保責任保険法人によって、計2回の現場検査を実施。設計図どおりの施工精度を確認いたします。

### 万が一の時にも安心な耐震補償付



SSバリューで建築した家が、万が一、地震の揺れにより全壊した場合、最高2,000万円まで建替え費用の一部を負担します。

※耐震補償付き「スーパーストロング構造体バリュー」の詳細内容は、『耐震補償付き「スーパーストロング構造体バリュー」約款』をご確認ください。(株)LIXILのホームページでご覧いただけます。

※「耐震等級3」相当とは、(株)LIXILが建物の構造の安全性に項目を絞りその性能を評価しているため、住宅性能表示とは区別して表示したものです。

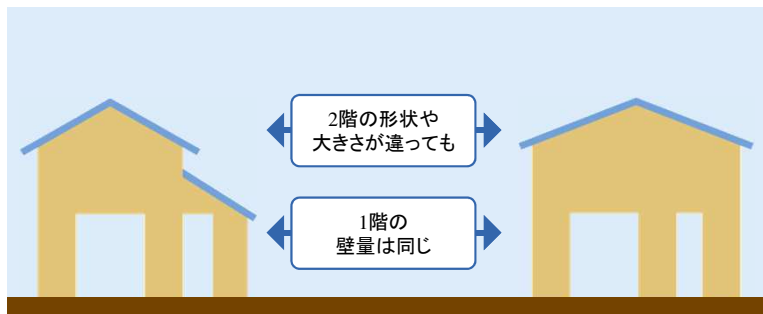
# 家の形状や大きさに応じて強度の不足を算出し補強を実施

耐震等級3相当※の家づくりでは、壁の量・床の補強・基礎配筋等の仕様において、家の形状や大きさに応じて強度の不足を算出し、しっかりした補強を行うため、開放的な空間であっても安心できる、地震に強い家を実現できます。

## スーパーストロング構造体バリュー「耐震等級3」相当※の強さの理由

### 建築基準法

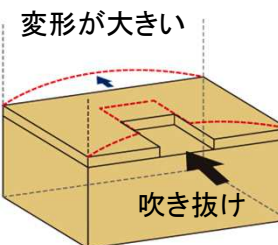
#### 壁が強い



2階の形状や大きさにかかわらず1階の壁の量は一定※です。  
※1階の広さにより必要な壁の量を算出します(見付面積で算出する場合があります)。

#### 床が強い

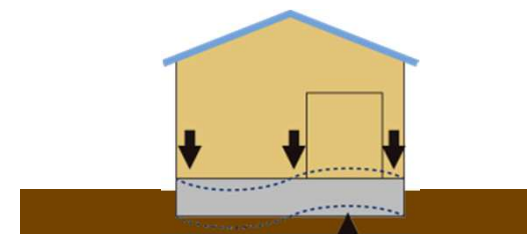
吹き抜けなどで部分的に床がないと弱くなる



床の形状や大きさにかかわらず補強方法は一定※です。  
※隅角に火打ち材(補強材)を使用します。

#### 基礎が強い

建物の隅角部や開口部などの柱間隔が大きい部分が弱くなる



地盤の強さに応じて基礎形式を選択するだけで、基礎配筋等の仕様は一定です。

### SSバリュー

2階の形状や大きさに応じて

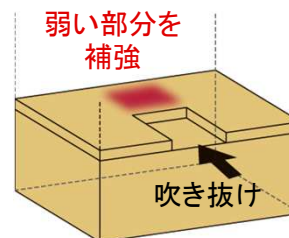
1階の壁量を算出して補強



建物の形や大きさに応じて必要な壁の量を算出し、不足している場合は補強を行うため、地震に強い家といえます。

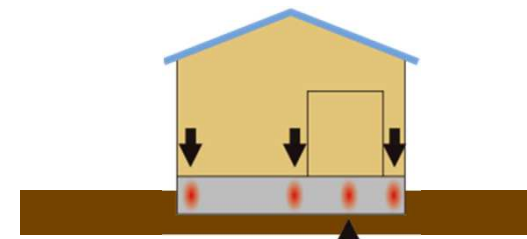
#### 変形にくい

弱い部分を補強



形状や大きさに応じて、必要な床の量を算出し、不足している場合は補強を行うため、地震に強い家といえます。

#### 弱い部分を補強



建物の形状や大きさに応じて基礎を配置し、強度不足の場合は配筋の補強を行うため、地震に強い家といえます。

※「耐震等級3」相当とは、(株)LIXILが建物の構造の安全性に項目を絞りその性能を評価しているため、住宅性能表示とは区別して表示したものです。